

1. 研究目的

最近のCDパッケージは、プラスチック製のものが主流になっており環境について配慮されていないという欠点がある。

そこで環境を配慮した、CDパッケージのデザインを追求する。

2. 調査と分析

現在、「紙ジャケット」と呼ばれている物は存在するが、一部プラスチックを使用していたり、紙だけで出来ている物でも、取り出しの際にCD本体に傷がついてしまったり、帯が仕舞えなかったり、パッケージと歌詞カードが一体化していたり、欠点がある。

そこで、日本伝統の遊びである。折り紙に注目し調査したところ、さまざまな折り方があることや、考案されている事がわかった。

3. コンセプトの立案

環境を配慮して一切、プラスチックを使用せずに、紙だけを使い折り紙の技法を利用したパッケージを制作する。

4. デザイン展開

- ・ディスクをを出し入れする時に傷が付かないようにする
- ・二枚組のCDなどもあるので、複数のCDが入ることができるようにする
- ・CDパッケージを並べたときの従来のケースとの調和
- ・出し入れが楽にできるようにする。

以上の条件を、考慮して、試作品を制作した。

- ・試作品1：折り紙の技法はとくに使ってはいないが、ケースを開くとCDが同時に出てくるようになっている



- ・試作品2：箱折りと言う技法を使い、折ったケースで、簡単に折れて、しっかりと収納できるものとなった。



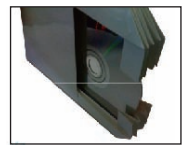
- ・試作品3：階段折りと言う技法を使い折ったもので、とてもきれいな見た目となった



- ・試作品4：三浦折りと言う折り方を使ったもので、ケースの両端を押し合うと試作品1同様、CDがでてくる仕組みになっている。



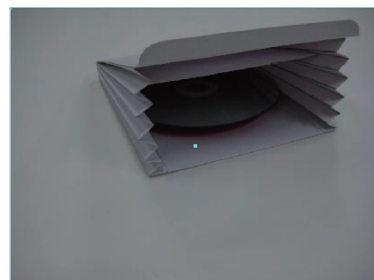
- ・試作品5：蛇腹折りと言う簡単な折り方を使ったものでケースの中の蛇腹を引くと蛇腹が広がるようになっている。



この5品から、

- ・CDケースとディスクの接する面を必要最低限にする
- ・蛇腹の特性を利用し、複数収納させる。
- ・片手で出し入れできるパッケージなどの改善点があがり試作品5を大本に最終作品を作成した。

5. 完成図



6. 結論

実際に、複数の人にこの作品でCDを出し入れしてもらったところ「片手で取り出しが、できて楽だ」など、デザインをしたものを、見せたところ、「従来のCDパッケージよりも、デザインが色々できそう」などの意見をいただいた、しかし、本来考えていた、環境配慮について、再生紙などを利用するなどのさまざまな改善点があると考えた。

7. 参考文献

日本折り紙協会 (<http://www.origami-noa.com/>)
daiichi (<http://www.daiichiinsatsu.co.jp/>)